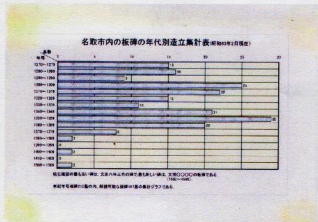


II-17-②



II-17-④

大門山遺跡

所在地：名取市高館熊野堂字大門山 52・530

鎌倉から室町時代にかけての大規模な墓所・供養所であるとされる本遺跡は、東北の太平洋岸沿いにおける熊野信仰布教の拠点となった名取熊野三社の勧請の地域にあり、その関連遺跡の一つと見られている。

高館丘陵の団地造成に伴う調査により、一部発掘され埋没施設と火葬骨を納めた集石墓群が発見された。前者は埋没行事の記念碑的な供養碑を伴い、後者は板碑(墓碑・供養碑)を伴う。

これらの遺構はその位置及び性格などから熊野信仰布教にかかわった人々の墓所とともに熊野山を信仰した人々の供養所であると思われる。

また、名取は県内でも板碑が数多く分布するところで、市内ではこの大門山にその大半が集中している。詳細な調査をすれば、少なくとも 300基以上はあると思われ、中世の墓所・供養所では県内最大の規模を誇る。

II-18-①

(板碑の種類別分類表)

種類	宗門	宗門遺跡	寺院名	境内の人数(千人)	種数
一般横手板		383	195	155	
二重横手板		4	3	1	
縦手板		2	7	1	
大石		4	2	2	
墓所埋没碑		2	1	1	
名取横手板		1	1	0	
五人横手板		1	1	0	
名取横手板		1	0	1	
特殊横手板		2	1	1	
その他		3	1	2	
合計		409	212	197	

II-17-③



II-17-⑤



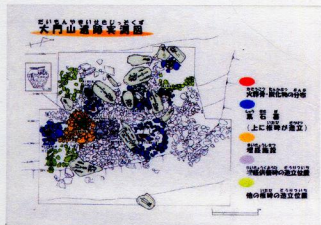
II-17-⑤



II-17-⑤



II-17-⑤



II-18-②